

解説 1

- 【重要】英文は、主語・(述語) 動詞・目的語・補語を正しく並べることで文法的に成立する。
これら4つを〈文の要素〉といい、それぞれを S・V・O・C で表す。
- 【重要】それぞれの文の要素は、品詞的には次のようになる。
- 主語 (S) : 必ず名詞 (句・節)
 - (述語) 動詞 (V) : 必ず動詞 (句動詞) ※助動詞や not などを含む。
 - 目的語 (O) : 必ず名詞 (句・節)
 - 補語 (C) : 名詞 (句・節) か形容詞 (句・節)
※ 〈述語動詞〉は主節の動詞と定義し、従属節 (後述) 中の 〈動詞〉と区別する。
- 【重要】副詞 (句・節) は、なくても文法的に文が成立するので、文の要素ではないが、〈時〉や〈場所〉、〈理由〉や〈程度〉などを表す重要な品詞である。

- [主] My father [動] called [目] me [補・名] Yui-chan
[主語] [述語動詞] [目的語] [補語 (名詞)] : 主節 (SVOC)
- [副] [接] when [主] I [動] was [補・形] young].
[接続詞] [主語] [動詞] [補語 (形容詞)] : 従属節 (副詞節) (SVC)
- 「私が小さかったとき、私の父は私をユイちゃんと呼んだ。」

上の例文の構造解説

- 〈主語 + 動詞 (SV)〉の構造を含む意味のまとまりを〈節〉と呼ぶ。
My father called me Yui-chan は、文全体の中心となる節で、これを〈主節〉と呼ぶ。
when I was young は主節ではない節で、これを「主節に従う」意味の〈従属節〉と呼ぶ。
- この従属節は、接続詞 when が導く、〈時〉を表す副詞節。
副詞なので、なくても (主節だけで) 文法的に文が成立する。
- この主節の called を述語動詞と呼ぶ。ただ、慣用的に単に〈動詞〉と呼ぶことも多い。
- 従属節の was は、主節の述語動詞と区別し、単に動詞と呼ぶ。述語動詞とは呼ばない。
- 動詞にどの文の要素が続くかは、その動詞の持つ性質 (動詞の語法という) で決まる。
ここでの call(ed) は目的語と補語をとる語法、was (be 動詞) は補語をとる語法ということ。

A 演習 1 : 基本問題 主節の文の要素がわかるようにスラッシュを入れ、さらに全体を和訳しなさい。

例 My father / called / me / Yui-chan / when I was young.

「私が小さかったとき、私の父は私をユイちゃんと呼んでいた。」

1. My mother was happy because I cleaned my room.

「

2. One of my friends called me early this morning.

「

3. He traveled around Japan by bicycle.

「

演習 1 : 解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. My mother / was / happy / because I cleaned my room. 「私が部屋を掃除したので母は喜んだ。」
※ because 以下は〈理由〉を表す副詞節。主節ではない。
2. One of my friends / called / me / early this morning. 「私の友達の一人が、今朝早く電話してきた。」
※この文に副詞節はない。early this morning は〈時〉を表す副詞句。この call 「電話する」は目的語をとる。
3. He / traveled / around Japan (/) by bicycle. 「彼は自転車で日本中を旅した。」 ※ around Japan は〈場所〉、by bicycle は〈手段〉を表す副詞句。〈前置詞 + 名詞〉の句は、原則として副詞句と考える。

解説 2

- どんなに長くて複雑な文も、文の要素と副詞から成り立っている。
英文解釈とは、文の要素と副詞のそれぞれの意味のまとまりを見極め、文意を正しくつかむことであり、英文法学習は、その見極める力を養うものにはかならない。
- 関係代名詞の例
- 関係代名詞とは、文を名詞節に変換するときに使われる、that や which などの記号のこと。
- She always wears the earrings. 「彼女はいつもそのイヤリングをしている。」(文)
→ □ the earrings (that) she always wears 「彼女がいつもしているそのイヤリング」(名詞節)
※関係代名詞の目的格 (the earrings は動詞 wears の目的語) は省略される。
- 名詞 (節) は、文の要素のうち、主語・目的語・補語になれる (解説1 参照)。
したがって、上の名詞節を文の要素に代入すると、次のような英文ができる。
- **The earrings** (that) **she always wears** are a present from her mother.
「彼女がいつもしているイヤリングは母親からのプレゼントだ。」(主語)
- Her little sister wants **the earrings** (that) **she always wears**.
「彼女の妹は、彼女がいつもしているイヤリングを欲しがっている。」(目的語)
- Her most valuable possession is **the earrings she always wears**.
「彼女のもっとも価値ある持ち物は、彼女がいつもしているイヤリングである。」(補語)
- つまり、これら3つの例文の構造を正しく理解するためには、
文の要素、名詞節、関係代名詞を知っておかなくてはならないということになる。
- 【重要】長くて複雑な文を正しく理解できるようになるためには、
比較的構造が単純な英文や節を、繰り返しの音読によってしっかりと暗記し、
文の要素と副詞の意味のまとまりを常に意識するのを習慣づけることが大切である。
この土台があって初めて、文法を学ぶ意味が実感でき、文法力を身に付けやすくなる。

B 演習 2 : 基本問題 () 内に示された文の要素の部分を下線で指摘し、さらに全体を和訳しなさい。

- 例 Her little sister wants the earrings she always wears. (目的語)
「彼女の妹は、彼女がいつもしているイヤリングを欲しがっている。」
1. I know a woman who keeps ten cats. (目的語)
「
2. The night sky I looked at in Hawaii last summer was very beautiful. (主語)
「

演習 2 : 解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. I know a woman who keeps 10 cats. 「私は、10匹の猫を飼っている女性を知っている。」 ※目的語は(述語)動詞に続く文の要素で、必ず名詞。ここでは、名詞 a woman を中心とする、関係代名詞 who 以降で修飾された名詞節。
2. The night sky I looked at in Hawaii last summer was very beautiful. 「今年の夏にハワイで見た夜空はとても美しかった。」 ※主語は、ふつう(述語)動詞の前にくる文の要素で、必ず名詞。下線部は、先行詞を the night sky とする、関係代名詞(句動詞 look at の目的格なので省略)以降で修飾された名詞節。

年	組	番	氏名	A
				/3
			実施日	B
			年 月 日	/2

検印